

投光器 学習版

国労東海貨物協議会
2012年8月25日 No.16
発行責任者 鈴木 和巳

今回は非正規労働者が与える影響と 私たちが何をしなくてはならないかを考えましょう！

その昔、会社の規模の大小にかかわらず正規労働者が中心となっていました。米国を模倣した新自由主義が突出したことにより、大企業の業績を上げるため様々な「規制緩和」が行われ、それまでは一部に限定されていた職種に対し、非正規労働者でも対応できるように変更されてきました。外食産業を中心に「アルバイト店長」「名ばかり店長」と言われる部分が増えてきたことは皆さんも承知のことだと思います。本来、会社の方針に沿い、営業を行う店長が非正規労働者ではおかしいと思われませんが・・・その非正規労働者が増えてきた影響を皆さんはどう考えますか？



「あまり関心がない」という方が多いと思いますが、実は大変なんですよ～。



非正規労働者は雇用の調整弁として重宝されてきましたが、不景気になり企業の業績が落ち込むと多くの非正規労働者の雇用が無くなり、安い賃金でも働かざるを得ず、働いていても生活保護費にすら届かないワーキングプアという状況が生み出されてきています。

現在、非正規労働者の割合が増えたことにより未組織労働者は増大し、労働組合が無いが故、会社の一方的な裁量により労働条件はおろか、雇用までが会社の思うままになっているのが現状だと思います。だからこそ非正規労働者は「会社の期待に応えなければならない」「雇用を維持するためには何でも我慢する」という考えが生まれています。

貨物会社の青年労働者の身近な部分にも非正規労働者は沢山いると推測しますが、その多くは貨物会社の労働条件より悪い状況だと思います。決して恵まれていない貨物労働者ですが、周りに自分より下の者がいると何か安心してしまい「自分は正規社員だから多少労働条件が悪くても仕方がないか」とか「非正規労働者に比べれば恵まれているか」などと考えるようになってしまいます。

そうすると、正規・非正規を問わず雇用が人質となり、労働条件の改善どころではなくなってしまいます。使用者側にとっては非正規労働者を雇用することにより人件費の削減ができるとともに、このような考え方が起きることが理想的だと思われませんが、労働者にとっては何一つ良いことはありません。

では、私たち正規労働者は何をしていかなければならないのか？

歴史を振り返るとき、経営側の搾取や攻撃に対し、組織労働者の団結した行動により多くの権利を勝ち得てきました。個人個人が自らの労働条件改善に向けて頑張る姿勢を持つとともに、労働者全体のことを考え、非正規労働者の縮小に向けて行動を起こすことが重要となります。



青年の皆さん、国労と共に闘いませんか！